

戦後の我が国における家政関係学設置の消長について

その3 ツニ了大学とジュニ了大学の比較

阪市大生活科学 ○松岡貴世子 上林博雄

目的：前報告その1においては、ツニ了大学における、又その2においては、ジュニ了大学における家政関係学の消長について発表を行った。本報告、その3においては、両者におけるこの学内ユニットの動向を比較し、並びに総合的見地から考察する。

方法：公的文献(注)より、大学、短期大学別に家政関係学の設置・改廃を調査し、その時代背景を参照して意義づけを行い検討する。

考察と結果：1) 家政関係学は、ツニ了大学学部設置、ジュニ了大学創立より見れば、両者共、昭和35年頃より急増し、全国的大学紛争前後にまで継続する。参考のため、全ツニ了大学及び、経営学部、経済学部の設置の変化を見れば、同様のことがいえるが、家政関係学の大学設置の増加の方が、その度合いが大である。従って、家政関係学の設置の消長は一般の大学の消長とおおむね軌を同じくしており、その要因は我が国の全体的な社会変化(例えば、経済成長、女子高等教育の一般化等)に存することがわかる。

2) 家政関係学の各学科、専攻等を全体的に見れば、ツニ了に比ベジュニ了の方が“家政科”を陳多多採であり、それぞれの特徴が前面的に現れている。

3) 家政関係学の各学科、専攻の消長を個々に見れば、学科等の名称及び内容は、ツニ了に於ては教取課程の關係で相対的に統一化しており、ジュニ了においては、かえって社会的ニードに対応したものに多採化している。(例については発表時提示。)

(注) 文部省大学局編“全国大学一覽”“全国短期大学一覽”(昭和55年度)